NEWSLETTER UKRAINE

UAJC
Ukraine-Japan Center NTUU "KPI"

Volume 3, Issue 3　AUGUST - SEPTEMBER 2012　www.uajc.com.ua

In the Issue:

People and Society

第17回ウクライナ日本語弁論大会 2

ウクライナポップへの誘い（1） 3

夏休み！人気の旅行先 4

Travel in Ukraine

ゴーゴリを訪ねて（1）
～生まれ故郷 ソロチンツィ村～ 6

読者の皆様

キエフは「三涼四寒」？朝方の気温が15.6度と気持ちの良い日の後は「冬を予感させる」気温一桁の寒い日が続きます。日照時間も日一日と確実に短くなり、「冬」が近づいています。キエフ市のシンボル、カシタン（栃の木）のイガイガの実も落ち、毎朝の掃除の人を悩ませています。日本も漸く、「酷暑」が終わり、秋を迎えつつあると報道されていますが、皆様は如何お過ごしでしょうか。

今年は日本とウクライナ外交関係樹立20周年に当たる事から、在ウクライナ日本大使館との共同イベント開催に余念がありません。9月7日は日本の検査機器メーカー「リガク社」の機器設置を受け、KPI(キエフ工科大学)内に「リガク・センター」を開設しました。翌週15日は京都から茶道「裏千家」の大宗匠他の方々にお出で頂き、立ち見もでる大盛況の中、日本の伝統文化「茶道」の講演・デモンストレーションを行いました。「裏千家の方々はウクライナの観客の熱心な視線に驚いた」と仄聞しました。今更ながら、ウクライナ人の日本への関心の高さを思い知りました。

さて、ウクライナは10月28日の最高会議選挙に向けて、慌しいニュースが乱れ飛んでいます。9月20日付けキエフポスト誌は「貧しい国の金権選挙」のタイトルで今回の選挙に注ぎ込まれている金額の高を詳細に「推定」しています。「ビートルズの曲にあるようにお金で愛は買えないが、(ウクライナでは)お金で票は買える」との自嘲気味の書き出しで始まるこの記事は「どの政党もルール違反は当たり前、誰も違反報告はせず、相互に目をつぶる互助会が出来ている」と断じています。選挙管理委員会の権限が制約されており、資金報告が義務付けられていない事を反映しているようです。現政権与党の「地域党」は各政党別の資金「推定額」2億ドル台をもとに街頭、TV、ラジオ等の媒体広告を活発に行っています。前首相ティモシェンコが収監される中、元国会議長のヤツェニューク率いる統合野党は「推定額」1.3億ドルの資金をもとにこれも積極的な活動を行っています。その他、ティモシェンコ前首相と袂を分かったコロレーフスカが主宰する政党「ウクライナ、前進」は、先のヨーロッパサッカー選手権（EURO2012）でも活躍したウクライナのヒーロー、シェフチェンコを引き込み大規模な広報活動を展開しています。因みに資金「推定」は1.5億ドルです。その他、世界ヘビー級チャンピョンのクリチコが代表を務める「ウダール」、共産党の資金「推定」は其々3千万ドル程度としています。各政党のスポンサーにはウクライナの名だたるオリガルヒ（新興財閥）の名前が噂されています。真偽の程は見当がつきませんが、選挙戦はオリガルヒの代理戦とも言われかねない状況に変わりは無いようです。しかし、選挙が終われば、各自の商売に影響が出ないように与党政権に鞍替えするのは茶飯事です。暫しの間の「代理戦」を観察しつつ、ウクライナの将来に思いを巡らせます。

2012年10月
ウクライナ日本センター所長　水谷　修

People and Society

第17回ウクライナ日本語弁論大会

斎藤　誠
タラス・シェフチェンコ記念キエフ国立大学　客員講師

9月22日（土）に、大学生たちによる日本語弁論大会が行われました。会場はキエフ国立言語大学の講堂で、150人ほどの観客が出場者20名のスピーチに耳を傾けました。

出場資格は大学生であることだけなので、大学で主専攻として日本語を学んでいる学生だけでなく、選択科目として受講していたり、個人授業で習っている学生まで様々な経歴の人がいます。それぞれが、制限時間5分のスピーチで日頃の学習成果を披露しました。

スピーチのテーマも、大学生らしく多岐にわたっています。例えば、「夢をかなえる」「人生を大きく変えた出来事」「思いの力」「日常の尊さ」など、自分の内的・身近な事柄や将来への表明、「アルバイト」「女性のキャリア」といった学生がこれから直面する問題、さらに「マスコミ」「エイズ」「交通問題」などの社会問題を取り上げた学生もいました。

ほとんどの出場者は原稿を暗記し、さらにジェスチャーを織り交ぜつつ、自信を持って、聞かせるスピーチをしていました。緊張しているはずなのですが、それを感じさせないのは、本番に強いという特性がそうさせるのでしょうか。よく練習してきているなと感じました。

またスピーチの後には、質問者による質問が2つ、待ち構えています。これは事前に準備できず、即答しなければならないので、弁論者が苦労するところです。元気よく明瞭に答える人もいれば、簡単な質問でも、緊張で答えられない人もいました。

今年の優勝者は、「人生で一番大切なもの」について発表したリヴィウ国立大学のパーニキウ・ユリアーナさん（3年生）でした。表現力が素晴らしい、聞く人を惹きつけるスピーチでした。6位までが入賞、他に「審査員特別賞」「審査委員長特別賞」が入賞できなかった出場者から選出され、それぞれ賞品が贈られました。

ここで2つ、主催者としての反省点を述べたいと思います。まず1つ目、スピーチ後の審査時間が長引きました。それは、表彰状の名前記入を筆で1枚1枚丁寧に手書きしたのですが、その墨を乾かすのに思いのほか手間取ったためでした。去年も同様の問題が生じ、今年こそはとドライヤーを導入して、満を持していたはずが…。審査結果を待たずに途中で帰ってしまった方もいらっしゃり、大変申し訳なく感じています。来年は台数を増やして対応したいと思います。そして2つ目、今回、オデッサ国立大学から出場を予定していた3名が大会の約1週間前に辞退することになり、代わりに急きょ、他の大学から3名が出場することになったのですが、準備期間が大変短く、他の出場者よりも不安だっただろうという点です。しかし、そのようなハンデがあったにもかかわらず、堂々としたスピーチをしてくれたこの3人の出場者にも、拍手を送りたいと思います。

私は去年に続いての参加でしたが、去年よりもテーマの選び方に思慮深さを感じました。レベルは確実に底上げされていると思います。今後も、ウクライナにおける日本語学習者の意欲と能力を高められるような弁論大会を開催していきたいと思います。末筆ながら、ご来場くださった皆様、また在ウクライナ日本国大使館、ウクライナ日本商工会他、開催をご支援してくださった皆様、本当にありがとうございました。今回ご都合の悪かった方も、来年は是非、一生懸命日本語を勉強している学生たちの頑張りを応援しにいらしてください。

弁論大会発表者との集合写真

ウクライナポップへの誘い（1）

四方　宏明
音楽ライター

今年、7月末にかねてから 計画していたキエフでの音楽アーティスト取材をして参りました。日本でウクライナポップと言って、それが何かが分かる人はほとんど居ないのが現状です。ウクライナ人と話していても、ウクライナ人のアーティストなのに「あの人はロシア人じゃないの？」とか言われてしまうこともありますから。ロシア語を約1年間、ウクライナ人の先生から習っています。ちなみにロシア語上達のスピードは亀のようですが、「四方さんはウクライナ人よりもウクライナのポップをよく知っていますね！」という言葉を励みにここまでやってきております。

私がここで取り上げるウクライナポップというのは、基本、ウクライナの大衆音楽（または流行歌）と考えてください。J-POP、K-POPに対抗してU-POPです（そんな呼び方はほとんどされていませんが、万が一、一般化したら私の功績です）。今回、キエフで3組のアーティストとmamamusicというウクライナのレコード会社のCEOと話す機会がありました。今後連載させていただけるようなら、そこから得たお話の詳細も書いていきたいですが、CEOのユリィ・ニキティン氏とお話をしていて、やはり確認できたのが、ソ連崩壊というのが大きなターニングポイントであったという事。日本も含めて欧米諸国では、70年代後半にパンク・ニューウェイヴというポップミュージックの転換期がありました。もちろん、ソ連時代にも流行歌やロックと呼ばれるものもありましたが、ソ連崩壊後に旧ソ連および東欧諸国で徐々にポップミュージックの土台は形成されていきました。

ウクライナではありませんが、00年（ゼロ）年代には、それらの国々から日本を含めた世界的なヒットを放つアーティストも現れます。ほぼ全ての日本人が知っているであろう、ロシアのt.A.T.u.（TATY）の二人組は代表的な例です。彼女たちの2003年に日本で発売されたデビュー・アルバム『t.A.T.u.』は、輸入盤も合わせれば、日本だけで200万枚以上売れています。CDの売り上げが今よりはあった時期ですが、驚異的な数字です。その後も、旧ソ連のモルドバ出身、O-zoneの「恋のマイアヒ」は、ヨーロッパでヒット後、着うたとし　て400万ダウンロードを達成し、現在まで一番ダウンロードされた着うたの日本記録保持曲。最近では、「ミスター・サクソビート～恋の大作戦～」が同じくヨーロッパで大ヒットした、ルーマニアのアレスタことアレキサンドラ・スタンも来日し、日本で注目されてきています。そういう状況ですから、ウクライナポップにもチャンスはありなのです。もちろん、ヒットすれば良い音楽、ヒットしなければそうでないという訳ではありませんけど。

ヴェルカ・セルデューチカ（magalyrics.ru）

では、ここでウクライナの一人のアーティストを紹介します。今回、幸運にもインタヴューのチャンスに恵まれたのですが、彼女の名前はヴェルカ・セルデューチカ。ウクライナでは超有名人です。2007年度ユーロヴィジョンで準優勝したおかげで、ヨーロッパ全土でも知名度があるアーティスト。ヴェルカは、元々コメディアンのアンドリィ・ダニールコ（男性）が造り出したおばさんキャラ。僕の世代だと、外見からボーイ・ジョージとか思い起こしてしまうのですが、ヴェルカはもっと陽気なおばさん。その後もヴェルカは、自らスーパースターのオーラを放つ頭に星（スターですから）をつけたド派手キャラに進化をしていきます。

ヴェルカは、ユーロヴィジョンで国内国外で大きな物議をかもしました。ユーロヴィジョンは、欧州放送連合に加盟する放送局によって毎年開催される音楽のコンテスト。過去の優勝者で一番有名なのは、スウェーデン代表で1974年に優勝したABBAですね。先ずは、それぞれの国で国内大会を開催し、代表を選出します。その際、ヴェルカはウクライナのナショナリストによって大統領に彼女を代表に選ばないようにと懇願されたり、ヴェルカ人形をキエフの独立広場で焼かれたり、嫌がらせを受けました。本選で、ヴェルカは「Dancing La-sha Tumbai」という曲でウクライナ代表として歌いましたが、このタイトルにもなっている部分が「ダンシング　ロシア　グッバイ」に聴こえると一部のロシア人からの抗議の対象となりました。確かにそう聴こえるのですけどね。ちなみに多くのウクライナのアーティストはロシアに進出していて、ヴェルカもロシアで大変有名。このあたり、ウクライナとロシアの微妙な関係が読み取れるエピソードです。

People and Society

今回、ヴェルカも含めた複数のウクライナ人と話していて、一見寡黙にも見えるウクライナ人ですが、とってもユーモアがあって、人々を楽しませたりすることに対する情熱を感じました。ウクライナには美形の人たちが多いですが、それだけではなく、エンターテイメント根性があるのではないかと。ウクライナのアーティストが本国だけでなく、ロシアやCIS諸国でも広く受け入れられる土壌にもなっていると考えますし、それが日本を含めて世界に広がればと願っています。

なお、今回の取材をもとにしたインタヴュー記事やウクライナポップを含めた音楽紹介を下記サイトで連載しておりますので、興味のある方はぜひ読んでみてください。

All About [テクノポップ]
http://allabout.co.jp/gm/gt/1694/
四方宏明の“音楽世界旅行”
http://music.sherpablog.jp/

ママ役とのツーショット

夏休み！ 人気の旅行先

古川　瑞穂
UAJC業務調整員

ヤルタ （クリミア半島）

日本で人気の海外旅行先と言えば、韓国や台湾、ハワイ、グアムなどですが、ウクライナ人は夏休み、どんなところで休暇を過ごしているのでしょう？

ウクライナ日本センターで働いている20代～30代のウクライナ人スタッフ6名に聞いてみたところ、今年の夏はそれぞれ、クリミア半島、トルコ、ブルガリア、タイ、スリランカ、日本へ行ったとのことでした。スタッフが夏季休暇を利用して旅行を計画していたことは知っていましたが、その行き先の多様さには驚きました。そして、ソ連時代、国外への渡航が厳しく制限されていたウクライナでも、独立から21年が経ち、若い世代を中心に国外へ出かけることがごくごく当たり前になったのだと、改めて実感しています。ただ、ウクライナの給与水準は決して高いとは言えず、誰もが海外旅行に行けるわけではありません。ウクライナ統計局の統計（2012年1月～8月）によると、1ヶ月あたりの手取り収入の平均は約2万8千円。ウクライナで所得が最も高い首都キエフの場合、全国平均の1.5倍ぐらいですが、それでも4万5千円程度です。統計に出てこない非公式の収入があることを想定しても、そう易々と旅行しているとは考えられません。ただ、「相応のお金を費やしてでも、非日常を味わえる旅行を楽しみたい」という感覚が人々の間に広がってきていることは確かです。

今年の6月、Googleが検索キーワードを基に「この夏、ウクライナ人が休暇を過ごしたい場所　TOP　10」を発表しました。結果は以下のとおりです。

1	クリミア半島 （ウ）	6	ギリシャ
2	カルパチア地方 （ウ）	7	モンテネグロ
3	トルコ	8	クロアチア
4	ブルガリア	9	モルディブ
5	エジプト	10	キエフ周辺 （ウ）

（ウ）＝ウクライナ

People and Society

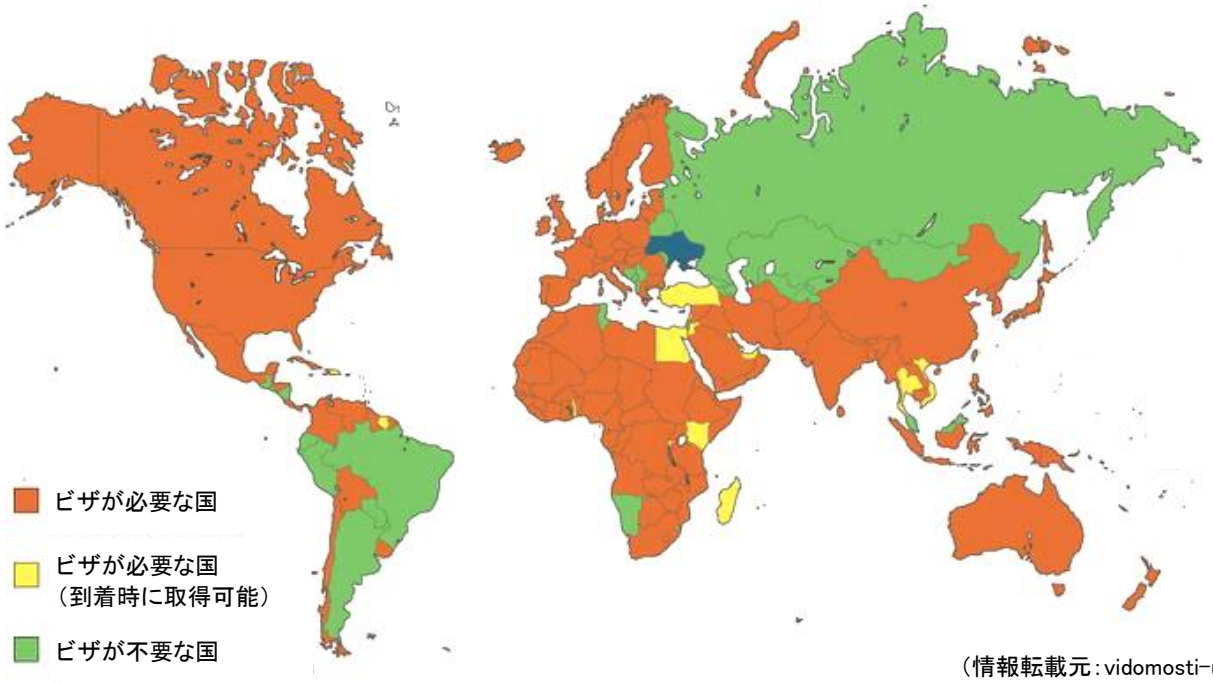
1位はクリミア半島 ― 「国内有数のリゾート、海に面した南の島」という類似点から、日本に置き換えると沖縄といったところでしょうか。同じような視点で考えていくと、2位のカルパチア地方は「山に涼みに行く」という意味で箱根、3位のトルコは「異国情緒あふれるリゾート」ということでハワイ、4位のブルガリアは「同じ系統の文字・民族、海に面している」ということで、台湾のような位置づけでどうでしょうか。かなり強引かつ短絡的な考え方ではありますが、まとめると上位4位は沖縄、箱根、ハワイ、台湾となります。こうして見ると、日本人もウクライナ人も夏休みに求めているものにあまり大きな差はないように思えてきます。

また、国外の旅行先で一番人気のトルコですが、その理由は「All Inclusive」、つまり交通費・宿泊費・食事代・ガイド代など「すべて込み」という旅行形式にあります。今ウクライナで夏のバカンス（国外）と言えば「All Inclusive のトルコ・ツアー」。日常のあらゆる煩わしさから開放された多くのウクライナ人が、トルコの海辺で休暇を楽しんでいます。

なお、2位のカルパチア地方と10位のキエフ周辺以外、ランクインした国・地域はすべて海に面しており、海辺にリゾート地を有していることからも分かるとおり、ウクライナ人は大の海好きです。以前、同僚の男性がウクライナの海辺で休暇を過ごし、かなり日焼けをして職場に戻ってきたことがありました。私は特に褒めるつもりでもなく、単に事実として「焼けたね～」と言ったのですが、自分の焼け具合に自信満々の彼は「ありがとう。日焼けすると、ネックレスが映えるんだよね・・・」と言って、わざわざ胸元に輝く金のチェーンネックレスを見せてくれました。海から帰ってくるウクライナ人は、男女問わず、この同僚のように賞賛の声を待っています。最近少しずつウクライナ人の海離れが始まっているという専門家もいますが、今のところまだ「夏といえば海！海行って日焼け！」が定番です。もし、お知り合いのウクライナ人が日焼けして帰ってきたら、是非、一言褒めてみてください。きっと喜んでくれるはずです。

さて、不動の第1位クリミアですが、ニュースサイトTSN.uaによると、今年の夏はツアー客だけでも500万人のウクライナ人がクリミアで休暇を過ごしたそうです。昨年同時期に比べ7%増とのことで、国外旅行が一般化する中でも、クリミアが人気を集めていることが分かります。また、カルパチア地方への旅行者も昨年に比べ10%増加したそうです。しかしながら、ウクライナの観光地は、国外に比べるとサービスの質が低く、その割りに値段も張り、交通費もヨーロッパの一部リゾートへ行くのと大して変わらないというのが現状です。では、なぜあえて国内のクリミアやカルパチアを選ぶのでしょうか？観光産業の動向に詳しい専門家の話によると、国内旅行であれば言語（コミュニケーション）の問題が生じないこと、国内のリゾート地でもサービスやインフラが改善されつつあること、小さな子どものいる家族の場合、遠出が難しいことなど、様々な事情が関係しているが、中でも一番キーポイントとなっている要因は「ビザの取得」ではないか、とのことでした。日本人の場合、多くの国にビザなしで入国することができますが、ウクライナではたとえ観光目的であっても、ビザなしで入国できる国はあまり多くありません。どこかに旅行したいと思ったとき、「ビザが必要」となると、やはり心理的負担が生じるのは避けられないようです。私も常々、友人のいるロシア

ウクライナ人がビザなしで入国できる国 （2012年5月時点）



（情報転載元：vidomosti-ua.com）

People and Society

を訪問したいと思っていますが、心とは裏腹、いつの間にかロンドン行きのチケットを買ってしまったりしています。その原因はまさに、ロシアの入国ビザを取るのが面倒だからです。きっとこの夏、ウクライナ人の中にも、私のように「いつの間にか」クリミア行きのチケットを買ってしまった人や、気が付いたらカルパチアのツアーチケットを手にしていたという人が、少なからずいたのかもしれません。

ただ、ここ数年、トルコやイスラエル、ブラジルなど、ウクライナ人がノービザ（査証免除）で行ける旅行先が増えてきています。また現在、ウクライナ政府はEUとの間で、ビザの取得手続きを簡素化し、将来的に旅行者が目的に応じノービザ（査証免除）で行き来できるよう、話し合いを進めています。霧の街ロンドン、華の都パリ、ロマンチック街道、古代ローマ遺跡、アルプス山脈などなど・・・EU諸国が観光客にとってどれほど魅力的な資源を有しているかは、日本人の皆さんもよくご存知のことと思います。もしウクライナ人がノービザで西ヨーロッパを旅行できるようになったら、国外旅行者の数は急激に伸びることでしょう。島国の日本とは違ってウクライナの場合、飛行機だけでなく列車やバス、自家用車など陸路でも自由に移動できるため、大きな変化が予想されます。そうなれば、クリミアもカルパチアも胡坐をかいてはいられないはずです。国内外から観光客を呼び込むために様々な工夫や改善がなされ、ハードとソフト両面において観光地としての魅力が高まるのではないでしょうか。将来を見越したウクライナの観光開発への投資はすでに始まっていますが、今後、その流れが加速することは十分考えられます。ウクライナに縁のある外国人の一人として、私自身、その成果に大いに期待しているところです。

いつか、海外旅行好きの日本人も、「今年の夏はシチリアとクリミア、どっちに行こうかな？」と頭を抱える日が来るかもしれません。その時には是非、クリミアへ！

Travel in Ukraine

ゴーゴリを訪ねて（1） ～生まれ故郷 ソロチンツィ村～

岡野　洋子
（パリ在住）

ポルタバは、キエフから南東へ350キロ、バス、電車で4−5時間、ウクライナを南北に縦断するドニエプル河左岸、ウクライナの中心に位置するウクラナ色濃い地方です。ロシアの大作家ゴーゴリ（「外套」「死せる魂」「検察官」など多くの作品が日本語にも訳されています）が生まれ育った所。今回のウクライナ紀行は、ゴーゴリの足跡を辿る旅、ポルタバ県の県庁所在地ポルタバ市を始め、ミルゴロド、ソロチンツィ、ディカニカ、ワシリエフスカ（現在はゴーゴレーベ）と、訪れたすべての町や村がゴーゴリに関係しています。

ゴーゴリの名前を聞いた事も無い人にはゴーゴリ発見に、名前は聞いた事があるものの本を読んだ事が無い人にはゴーゴリの作品発見に、すでにゴーゴリの本の読者には作品の背景発見に、この紀行文が少しでも役立つことを願いながら、ポルタバ地方に足を踏み入れてみましょう。

ソロチンツィは、ウクライナ、ロシアその他周辺諸国の人々には、毎年開かれる定期市で有名です。といっても数多くある定期市の中でもソロチンツィのそれが特に大きな市でもなかったにもかかわらず、一躍有名になったのは、ゴーゴリの「ディカニカ近郷夜話」の第一話、「ソロチンツィの定期市」が出版されてからのことです。市場で雌馬や小麦を扱う商人チェレヴィークの娘パラーシャと青年グリツコの恋愛物語、ゴーゴリ特有の悪魔、この物語の中ではチェルノボグ（黒神）も登場、舞台はまさにソロチンツィの定期市。当時小ロシアと呼ばれていたウクライナの生活や習慣を子供の頃から大事にしてきた作家のウクライナへの愛情が感じられる物語で、舞台でも演じられます。後にムソルグスキーがこの話をオペラ化、陽気な若者たちの踊り「ゴパック」始め、ウクライナの地方色を楽しく表現した作品です。

人口4千人のこの村を定期市の期間に訪れる観光客、出展者は50万人から100万人といいますから、その重要性が伺われます。2012年の定期市は8月14日から19日まで開かれ賑わいました。この日をめがけて13日に村に着きましたが、周辺の道路は行商人の車や荷物の検査で混み合い、ビール満載のトラックがあとからあとから到着する様子は

Travel in Ukraine

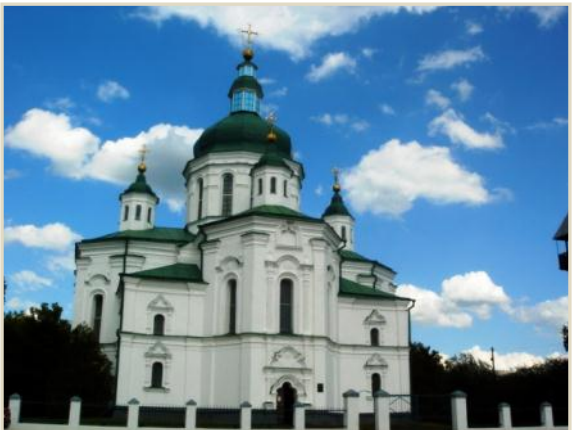
圧巻でした。馬車と自動車の違いはともかく、ゴーゴリが、じりじりと太陽が焼き付く暑い8月のある日、人々がどのようにソロチンツィ入りしたか物語っている様子そのままです。定期市はウクライナでよく見られる大きな市場に、フォークフェスティバルや地方物産の紹介が加わり、周りにビアガーテン、レストラン、遊園地と家族連れで賑わいます。商店の無かった昔、食料品、雑貨、家畜などの取り引きは、すべて市場でおこなわれていました。その数は万の単位だったそうです。ポルタバ地方でも、ソロチンツィや今でも常設市場で栄えるドニエプル河畔のクレメンチュクなど、大きな市場が沢山ありました。毎年開かれるソロチンツィの市場は、今はお祭り気分で地元の人も観光客も楽しめるイベントになっているようです。

荷台からあふれる収穫

ソロチンツィ村は、ポーランドの支配から解放された17世紀、ドニエプル下流ザポロジエ（ウクライナコサックの共同体があった町）のコサック、ダニロ・アポストルがヘットマン、マゼッパより譲り受けた村。ゴーゴリは、1809年このソロチンツィ村で生まれました。父親は、近くのワシリエフカ村の地主、母親の家系はウクライナコサック、何人かの子供を既に亡くしていたことから、母親はこの村に住む名医トロヒモフスキー家に滞在、無事に男子を出産しました。男子はニコライと命名され、村の教会で洗礼を受けます。定期市以外何もないのどかな村ですが、この教会は一見の価値があります。

賑わう市場

St Transfiguration教会は日本語に訳すと「聖キリスト変容教会」とでも呼ぶのでしょうか、新訳聖書のマタイ、マルコ、ルカ伝に、山上でキリストの顔が太陽のように金色に輝き、着ていた服は光のように真っ白に変身した、と記されていますが、その瞬間の神の子イエス・キリストを象徴、キリスト変容と訳されているようです。1732年、ダニロ・アポストルの晩年に建立されたこの教会は、当時7つのキューポラ（現在5つ）を抱いたウクライナバロックの代表的建物です。キューポラが7つある教会は、現在ではキエフの聖ミカエル教会とポルタバの聖十字架昇天修道院のみでその姿を見ることが出来ます。この教会、ゴーゴリが洗礼を受けた事で有名ですが



St Transfiguration 教会

村の教会で司祭のお清めを待つ人々

Travel in Ukraine

すばらしいのは内部正面を飾る豪華なイコノスタース、樫の木の枠に100以上のイコンが復元されています。ソビエト時代は博物館として使われ、幸いにも破壊されなかったため、1969年の再オープン後オリジナルに忠実にイコンが復元されました。圧巻は等身大のキリスト像と山上で光を放つキリストのイコンなどですが、ひとつひとつのイコンにウクライナ人の宗教への思いが込められ、時間を忘れてそれぞれのイコンに引きつけられます。ソロチンツィの定期市が始まった14日は、ちょうどロシア正教のマリア昇天祭（正教ではマリアは眠っていると表現）、教会も定期市の期間は、毎日オープン（通常は日曜、祝日のみオープン）観光客も訪れていました。奇しくも朝9時の鐘の音とともに始まったマリア昇天祭のミサに出席させてもらいました。終わったのは12時ですから3時間立ちっぱなし、一人として途中で立ち去らないのには驚きましたが、多くのイコンから吹き出てくるエネルギーと美しい聖歌、司祭の祈りに、時間を忘れて村人にお付き合い、ミサ後の聖水式にも立ち会う事ができました。この日から2週間は肉、卵、乳製品を断つ断食週、村人は家から花や野菜、果物（メロン、スイカ、リンゴ）蜂蜜などをかごに入れて持ち寄り、聖水で清めてもらうため教会の庭に円陣をなして司祭が廻ってくるのを待ちます。旅行中の私は手ぶら、司祭からは頭から聖水をかけてもらい旅の無事を祈りました。幸い真夏の太陽が照る8月のこと、髪も服もすぐに乾きましたが、変な外国人でも受け入れてくれたことがわかって感激しました。

バーベキュー用のかまど

村を流れるプショル川、その川辺にある野外博物館の中の一軒の民家が私の泊まったホテルです。200年前の民家を改造、ベッドと机、椅子、テレビが備わった1室に近代的シャワー・トイレ室の至って簡素なホテル。電気はあるものの本を読む明るさにはほど遠く、暗くなったら寝る昔と同じチョイスのみ、まるで200年前に遡ったような気分でした。庭に出ると隣にTransfiguration教会が見え、プショル川の川辺の白樺が風にそよぐ音と小鳥のさえずり、静かで平和な田舎住まいです。敷地は野外博物館、ホテルになっている大小の民家（それぞれ入り口の木の扉に誰の家か書いてあり、私の家

私の泊まった民家

マシュカとブルカ

は牧師の家の隣、牧師の奥さんの家）、レストランになっている母屋が一軒、バーベキュー用のかまど、豚のマシュカとブルカの家、冒険好きのヤギの家、鶏小屋、すべて昔のまま。定期市の季節なので、時々観光客が民族衣装のガイドに伴われ野外博物館見学、ひまわりや立ち葵などの花でいっぱいの庭を散歩したり、川辺に下りたり、写真を取ったり、レストランで食事をしたりしています。家の前ではトマトやキュウリ、カボチャが栽培され、裏の川で釣った魚を焼いた夕食。魚の名前を聞いたところ、単純に「裏の川で釣った魚」という答え。肉でないのは確かですが、この適当さもウクライナの良さでしょう。ホテルは食事別、町のホテルのような朝食は期待できません。レストランで売っているパンとコーヒー、紅茶ぐらいが朝食（私はビスケット類を持参）、昼も夜も定期市（ホテルから3キロ）かこのホテルのレストランかのいずれか。ホテルレストランはメニューはあるものの何か選ぶとどれも「無い」、の一言。最終的に「何があるか」聞いた方が早そうなので質問すると、「ボルシチがある」「バレニキ」がある」とのこと。「ボルシチとバレニキしかない」という意味ですから、これを注文するしかありませんでしたが、美味しかったのと可愛い娘さんの笑顔とで満足の食事にはなりました。都会の喧噪と忙しさから逃れたい方、ウクライナのリズムに絶えられる方たちにはお薦めできるホテルです。

Ukraine-Japan Center NTUU "KPI"
Peremohy Ave., Library NTUU "KPI", 4th floor
Kyiv, 03056 Ukraine

Tel: +38 (044) 406 81 66
Fax: +38 (044) 406 80 48
E-mail: uajc@kpi.ua

[uajc.com.ua]

ご購読をご希望の皆様:

本ニュースレターは、日本の方々にウクライナのことをより深く知っていただくことを目的に隔月で発行されています。次号の発行は2012年11月の予定です。購読をご希望の方はUAJCのウェブサイト(http://uajc.com.ua)にアクセスし、購読をお申し込み下さい。ページの左側にある「REGISTRATION」をクリックし、申し込みページに必要事項を記入し、「SEND」をクリックして下さい。

お申し込みをお待ちしています。

記事執筆: 水谷修／斎藤誠／四方宏明／古川瑞穂／岡野洋子
編集: 古川瑞穂